

路（みち）が熟するとき

静永, 健
九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/7168383>

出版情報 : Tongxue. 66, pp.12-13, 2023-10-20. 同学社
バージョン :
権利関係 :



路（みち）が熟するとき

静永 健

訓読するのか、音読か。杜甫の詩を読む場合、できればそのいずれもを駆使して作品世界に迫りたい。

堂 成 tóng chéng 杜甫 Dù Fǔ

背郭堂成蔭白茅 郭を背に堂成りて白茅におほはる

bèi guō kāk tūng chéng yīn bái hāk mǎo

縁江路熟俯青郊 江に縁ひ路熟して青郊を俯す

yüan jiāng lù shù jū k tū qīng jiāo

橙林礙日吟風葉 橙林は日を礙り風にうたふ葉

qín lín ài rì jīn fēng yé ēf

籠竹和烟滴露梢 籠竹は烟に和し露したゝる梢あり

lóng zhú chūk hé yān tī tēki lù shāo

暫止飛鳥將數子 暫く止まる飛鳥は數子をひきゐ

zàn zhǐ fēi wū jiāng shù zǐ

頻來語燕定新巢 頻りに来る語燕は新巢を定めたり

pín lái yǔ yàn dìng xīn cháo

傍人錯比揚雄宅 傍人は錯まり比す 揚雄の宅

páng rén cuō bī yáng xióng zhāi tāk
懶惰無心作解嘲 懶惰なれば解嘲を作るに心無し
lǎn duò wú xīn zuò sāk jiě cháo

安史の乱の騷擾に遭い、杜甫は官職を棄て、家族を連れて各地を放浪する。そして、かつての友人高適や嚴武らが長官を務める四川に辿り着き、成都の城郭をはずれた川沿いの一面に、何とか住所を定めた。

普通話で音読するのは、その声調から平仄（○●）を知るため。ただし現代音ではつかめない当時の入声は、日本の漢字音（一フ、一ク、一ツ、一キ、一チ）で補う。すると、この詩の平仄は次の通りとなる。

●●●●●○、○●●●●○●○
○●●●●○、○●●●●○●○
●●●●●○、○●●●●○●○
●●●●●○、○●●●●○●○
○●●●●○、○●●●●○●○
○●●●●○、○●●●●○●○
○●●●●○、○●●●●○●○
○●●●●○、○●●●●○●○

第二外国語の選択では依然中国語の人氣が高いため、二年次に中国文学講座に進級して来る学生さんはほぼ全員ピンインがわかる。また大学院には最近、中国からの留学生が増えたので、私の演習のこのような要求にも、彼らは容易に期待に応えてくれるのである。

もちろん「どうして葉がエフなの？」とか、今回は無かったが「看kāngは中古音ではkangで平声…」とか、小声で日中双方の学生が教え会わないと完成には至らない。でも、君子は上達す。どうか頑張つて欲しい。詩の平仄がわかれば、例えばなぜこの詩の第五句にカラスが登場するのか（＝飛鳥niāoでは平仄が合わない）が理解できる。もちろん、母鳥の子育ては漢代の樂府「烏生八九子」以来の伝統でもある。

さて後世「浣花草堂」の名で知られるこの住まいは、さきほど述べた嚴武らの斡旋によって奇跡的に実現した、まさに杜甫にとって夢のような楽園だった。もしかすると嚴武の紹介中に「この人は蜀の文豪揚雄の再来。今にきつと歴史に残る名文を書かれるお方になるだろう」などとの予言があったのかもしれない。

嚴武の部下である現地の豪族たちは、先を争つて杜甫を訪ね、工事費用の一部を醸金したり、自分たちが所有する自慢のものを持ち寄ったりした。三ヶ月と経たぬ短期間で完成したという状況から判断して、この土地と堂屋は、すでにそれ以前から建っていたものを少しリフォームしただけだったと思われるが、太陽の

日差しをさえぎって、橙（和名ハンノキ）が「風に吟じている」とか、雨の日には烟（もや）がかかる籠竹の梢から「露が滴る」などという具体的かつ細やかな描写は、これらが近隣の名士たちからの寄贈物であることの謝意を含むであろう。そして母屋の茅も、たたび杜甫一家のために新しく葺き替えられたものなので、白く光っているのである。

ところで、この詩を読み解く上での最大のヤマ場は第二句の「熟」である。この文字が表現しているものは日本の漢字辞書の解説のみでは十分に把握できない。一方、現代中国語でこの「熟（熟識shúshi）」はまさに馴染み深い。ヒトやモノの性格・性質、そして例えば北京旧市街の小胡同の繋がり具合など、地図にも載らないような細かな情報までも知ること。だがこの感覚は数十年前、大学に入学して一人暮らしを始めた時の自分に一致する。コンビニやスーパー、仕送りが届く郵便局、そして理髪店と自転車屋さんなど、下宿の周囲を歩き回りながら日々の生活をあれこれ思い描いたあの日の記憶である。今、杜甫の成都での新生活が始まる。

（九州大学教授）